

序



リウマチ・膠原病疾患はきわめて多様であり、その診療は決して一筋縄ではいきません。本書を手にとられた皆様も、日々の臨床のなかで「教科書通りにはいかない」難しさを実感されていることでしょう。実際、リウマチ・膠原病は稀な疾患群でありながら、分類基準にぴったり当てはまるケースはむしろ少なく、例外的な症例こそが印象に残ることも少なくありません。さらに、一見して膠原病が疑われる症状や所見であっても、その背景には全く異なる疾患が隠れていることもあります。

こうした複雑な状況のなかで、リウマチ専門医であっても膠原病という枠にとらわれず、幅広い視野で診療に臨むことが求められます。本書では、リウマチ・膠原病診療の多様性を余すことなく伝えたいという思いから、執筆陣もできるかぎり多様な背景をもつ医師に依頼しました。研究に重きを置く先生、臨床に専従する先生、さらには大学病院、市中病院、リウマチクリニック、開業医と、それぞれ異なる環境で診療を行う先生方に執筆をお願いしました。また、ベテランから若手まで幅広い世代の先生方にご参加いただき、それぞれの視点を反映した、多角的な知見を集めることができました。

さらに、本書の執筆者を募るにあたっては、従来の人的ネットワークにとどまらず、SNSを通じて広く呼びかけました。その結果、これまで接点のなかった先生方ともご縁をもつことができ、多様な経験や考え方を反映することが叶いました。それぞれの執筆者が自身の経験をもとに具体的な症例を交えながら執筆しており、臨床の現場で即実践できる知識がつまった一冊となっています。

編者としては、各執筆者の意図を最大限尊重しながら編集を行いました。そのため、読み進めるうちに、執筆者それぞれの個性や診療スタイルの違いを感じ取っていただけることでしょう。本書を通じて、読者の皆様が診療の幅を広げる一助となれば、これほど嬉しいことはありません。また、次の書籍では、ぜひ皆様自身が執筆者として新たな知見を共有していただければと願っています。

最後に、本書の刊行にあたり、多大なるご支援を賜った羊土社の久本容子様、林理香様、ならびに編集部の皆様に、心より感謝申し上げます。本書が、読者の皆様の日々の診療に役立つ一冊となることを願っております。

2025年3月

京都大学大学院医学研究科附属 がん免疫総合研究センター
がん免疫治療臨床免疫学部門
吉田常恭